

「地域の中核、世界の人材」 UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報[ヴァイン]

March 2015 vol.25

Vine

能動型学習の取り組み

～実践力ある看護系人材の育成を目指して～

[人物発掘]

園家啓嗣 教授

(大学院総合研究部 工学域機械工学系)

[びっくあっぷレッスン]

ワイン製造科学実習

[ゼミ紹介]

障害見教育コース

サークル紹介 / クローズアップびーふる / キャンパス内外情報





能動型学習の取り組み

～実践力ある看護系人材の育成を目指して～

医学部看護学科では、能動型学習による看護技術の指導教育力、体験学習による災害時対応能力を備えた実践力ある看護系人材の育成をミッションとした授業（講義・演習・実習）を行っています。学生主体のこれらの授業において、生き活きと参加し意見交換しながら学ぶ学生の姿は、我々教員の励みにもなっています。

今回は、「DVD教材作成と講義実施」、「ストーマ患者のケアの演習」、「トリアージ訓練への参加を取り入れた災害看護の授業」について紹介します。

『学生主体の看護技術DVD教材作成・講義の実施で実践力・指導教育力をつける』

看護学科では、看護師・保健師・助産師に必要な知識・技術を実践の場で体験、学習する臨地実習が行われます。しかし、患者さんの安全性が最優先されるため見学にとどまることも多く、学生が体験により学習できる技術は少なくなっています。そこで、看護技術の科学的根拠と具体的手順を習得し、対象にあったケアの実施を目指して、DVD教材作成を行っています。また、作成したDVDを用いて下級生に講義を行うことで、指導教育力も養います。

具体的には、事例をもとに必要な臨床看護ケア（看護技術）を学生同士で検討し、シナリオを作成、実際の場면을撮影・編集し、約20分のDVD教材を作成します。平成26年度は成人看護学領域で卒業研究を選択した4年生が「術後1日目のケア」をテーマに、胃切除術を受けた患者さんへのケアについてのDVDを作成しました。作成中に学生は、実習での経験、文献から得た知識を基に患者さんに適したケアとその根拠について話し合い、試行しながら内容を深めていきます。教科書どおりにはいかないことやポイントの

整理、自分が理解するだけでなく、他者にわかりやすく伝えることを考えながらのDVD作成は難しさもありました。しかし、安全・安楽なケアを丁寧に考え、映像で確認することで技術を客観的に評価でき、今までの学習の集大成として看護技術を振り返ることができたと学生も実感しています。

また完成したDVD教材を用いて、4年生が臨地実習前の3年生に講義を行いました。3年生は熱心に講義を聴き、今後の実習と1年後の自分自身への期待を膨らませていました。

チーム力を結集し、よりよいケア、根拠をもった看護技術を考えました。また、根拠を考えることで自分に足りないものが見えてきました。

撮影を重ねるごとに意識が高まり、細かいところまで気を遣えるようになりました。ケアの美しさは患者さんの不快感の軽減につながるのではないかと思います。



『ストーマ装具の装着体験を通じた技術演習で看護実践力をつける』

ストーマとは、大腸がんや膀胱がんなどのために外科手術によって腫瘍を摘出した後に消化管や尿管などを腹壁に縫合した排泄口です。患者さんは、腹壁のストーマに専用の装具を装着して排泄の管理をすることになります。そのようなストーマ患者さんの身体的変化に伴う精神的な混乱を理解し、ケアを実施できるようにするために、学生は装具装着体験をはじめ、適切なスキンケア方法および在宅での生活指導について学んでいます。

装具の装着体験では、ストーマ装具の中に模擬便を入れた状態で外出や入浴、睡眠などの行動を普段の生活と同様にして2日間過ごしています。学生は、模擬便の臭いが気になったり漏れが心配になったり、テープを貼ってある部位にかゆみを生じたりと様々な体験をすることで患者さんの大変さを実感しています。また、貼ってあった装具を剥がす時の皮膚の痛みを感じることで、「痛くない剥がし方」を学ぶための動機づけとなっています。スキンケアでは、ストーマ装具の剥がし方から皮膚の洗い方、乾かし方まで、スキンケア理論に則ったケアを実施しており、「痛くない」「気持ちよい」を体感してケアに繋げられるようにしています。

お腹に貼ったストーマ装具を“痛くない方法”で剥がす技術やコツを知り、真剣に装具を剥がしているところです。装具を剥がした後に皮膚を観察し、皮膚の状態のアセスメントをします。

ストーマの大きさに合わせて装具の穴を開け、腹部に貼る準備をしているところです。患者さんそれぞれのストーマの形や皮膚の状態に合わせるのがポイントです。



特にストーマ装具の選択はストーマリハビリテーションの鍵となる重要な看護師の役割なので、腹部の皮膚の状態や体格の変化、術後に生じた全身の変化や合併症の発症などの局所や全身のアセスメントは不可欠となります。

このような専門技術の演習では、地域の基幹病院で皮膚排泄ケア認定看護師として活躍しながら本学大学院修士課程で学んでいる看護師に協力を得て、身近でプロのケアを見て学ぶようにしているのも大きな特徴です。

『医学部附属病院や地域と連携したトリアージ訓練での体験を通して、学生が災害時に実践できる力をつける』

看護学科では、「健康危機への看護実践」という授業の一部として3年次に附属病院で実施しているトリアージ訓練に医学科と合同で参加します。学生であっても災害時に医療施設へ駆けつけてボランティアスタッフとして実施できることを身につけるという目的のもと、事前に応急処置法の実習を行ってから訓練に臨みます。

応急処置法の実習では災害時に活用できる包帯法や担架での搬送などの技術を学び、トリアージ訓練当日には実際に患者役の方に対して実施します。包帯法では三角巾や包帯のほかに日用品(傘やビニール袋など)を活用する方法、担架での搬送は階

段昇降も含めた訓練を全員が行いました。

訓練は一時避難後にボランティアとして病院で活動するという実際と近い方法で始まります。中には傷病者および付き添い役、マスコミ役などボランティア以外の役割を持つ学生もいます。傷病者や付き添い役の学生は、具体的なけがや病気の症状を想定してその患者さんになりきるために、既習知識をフル活用して臨みます。このトリアージ訓練は附属病院の職員だけでなく、自治体や地域住民の方々にも参加していただいている臨場感ある大掛かりなものです。学生はそれぞれの役割を通して災害時に重要なことや改善点を考え、反省会で意見交換しながら学びを深めています。訓練により、自らが感じて判断しながら行動に移すことが求められていると自覚するようになり、今後の学習の動機づけになっている学生も少なくないようです。

トリアージを受けた傷病者に看護師(ピンクのガウン)が話しかけ元気づけています。医療スタッフの傷病者への細やかな配慮をたくさん見せてもらいました。

ボランティア役の学生が傷病者の搬送を真剣に行っています。お互いに息を合わせ、振動に注意しつつも急ぐ大変さと何より安全に搬送する責任を痛感しました。



人物 発掘



園家啓嗣教授

(大学院総合研究部 工学域 機械工学系)

「第13回やまなしビジネスプランコンテスト」で最優秀賞を受賞!

技術者にも、研究や開発をビジネスに活かす能力や

コスト意識が求められる傾向が強まるなか、

園家啓嗣教授が積極的に取り組んできた

ビジネスマインド養成が、確実に実を結びつつあります。

製品そのものより、内部の構造に興味があった子ども時代

もうずいぶん昔のことになりますが、私が子どもの頃は、家の周囲に空き地や広場がたくさんあって、子供たちは野球をしたり、鬼ごっこやかくれんぼをしたりして、暗くなるまで遊んでいたものです。私も、学校から帰るとランドセルを放り投げて遊びに行き、宿題そっこのけで友達と遊ぶ元気な子どもでした。

一方で、いろんなものを分解することも好きでした。「どんな風になっているのかな」と中身が気になって、シャープペンシルとか、時計とか、すぐに分解しちゃうんです。ところが組み立てることはできないものだから、そのまま壊れてしまう。そういえば、テレビを分解したこともありましたね。今では滅多に見かけないブラウン管のテレビ。不思議と両親に怒られた記憶はないのですが、今思うと、機械への興味はその頃から持っていたのかもしれない。

興味の対象は、機械ではなく材料。大学院卒業後は一般企業へ。

ものづくりの工程は、材料から始まって、設計し、作って、動くかどうかを試して、生産するという流れなのですが、私はその中の基礎の部分、すなわち、材料を作ったり、設計をしたりというところにもともと興味がありました。それで、大学は大阪大学工学部生産加工学科

へ進みました。もともと、大学時代は勉強よりもテニスサークルでの活動の方に一生懸命でした。もともと身体を動かすことが好きだったこともあり、テニスは今も続けています。

大学院卒業後は石川島播磨重工業(現IHI)に就職しました。約30年研究職に従事した後、産業技術総合研究所を経て大学の教員になりました。

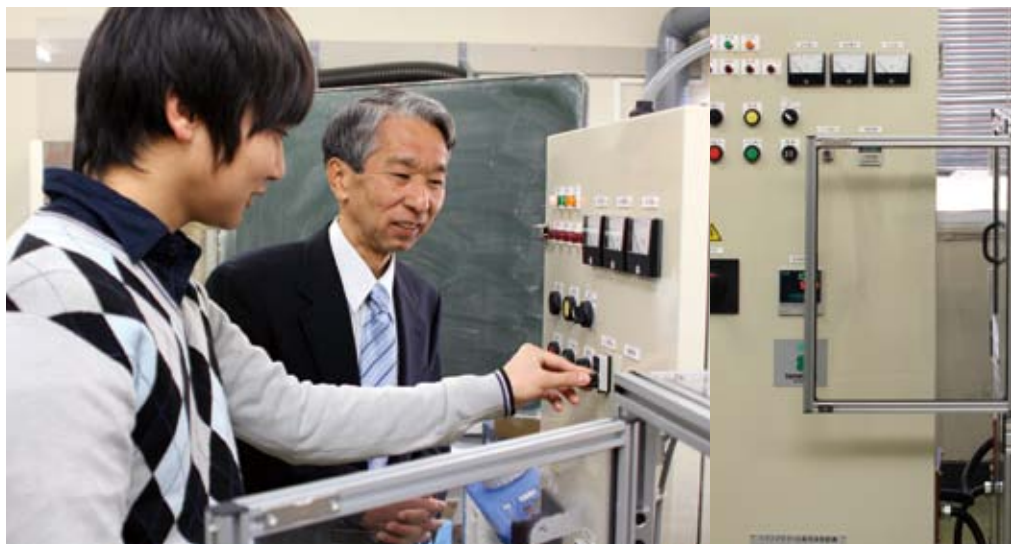
材料と加工技術の組み合わせを工夫することで、新たな機能や材料の創出をめざす「材料加工学」

金属やセラミックス、プラスチックなど、機能や性質も違う様々な材料と、溶接、塑性加工、接着、表面加工といった加工技術の

組み合わせを工夫することによって、元の材料に新たな機能を加えたり、元の材料とは全く違った特性を与えたりして新しい材料を創り出す、あるいは加工技術そのものを開発するといった研究が、私の専門とする材料加工学です。実用的な金属やセラミックスなどをいかにうまく使うかということが一つのテーマとなっていて、企業との共同研究も多く手掛けています。

アルミニウム合金を大気中で接合する方法を、企業と共同で研究・開発中

ここ数年私が取り組んでいる研究の一つに、「大気中におけるアルミニウム合金の接



「あっ」という間に
 過ぎてしまう大学生活。
 夢中になって「何か」に取り組むことが、
 次のステップへと進むための、
 大きな自信と力になる。



室では、あくまでも軸は研究や技術開発に置きつつも、その技術をいかに活用してビジネスとして成立させるかというプランを考え、企画書にまとめて、「山梨ビジネスプランコンテスト」に応募する活動も行っています。昨年は、学部生と大学院生のグループが最優秀賞を受賞することができ、他の学生にとっても一つの励みになったと感じています。

**長いようで短い大学生活。
 何か一つでいい、集中して取り組んで欲しい。**

大学4年間は、長い人生の中でも稀有な自由になる時間であり、それぞれの考え次第で何にでも挑戦できる時間です。ぜひ、夢中になれることを見つけて、集中して取り組んで欲しいですね。

山梨大学工学部には、専攻や所属する研究室に関係なく、工学部の学生なら誰でも参加できる「PBLものづくり実践ゼミ」という活動があり、自動車を作ってレースに出場したり、ロボコン競技会に出場したりと、いろんな取り組みをしています。もしかすると、そこに「何か」があるかもしれません。あるいは、サークルやスポーツ、アルバイトなど、勉強や研究とは違う場面で、夢中になれる「何か」に出会う人もいます。

何か一つでいい、卒業する時に、自分はこれをやったんだと胸を張って言えるものがあれば、自信を持って次のステップへ踏み出せますし、その後の人生の大きな力にもなります。自分なりの「何か」を見つけ懸命に取り組むことで自身を磨き、実りある4年間にしてください。

合法の開発」があります。軽くて丈夫なアルミニウムは飲料の容器に使用されるなど日常生活においても身近な軽金属の一つですが、非常に酸化しやすいという特性を持つため、接合する際には真空容器が必要です。

現在、冷蔵庫の熱交換器などがアルミ合金で作られているのですが、もし、大気中で接合する方法が確立され、加工できるようになれば、真空容器が不要になるため設備投資費が大幅に削減できますし、今よりも短時間で作れるようにもなりますので、今と同じ性能の冷蔵庫が、今よりも安い値段で入手できるようになると考えられます。さらに、今はサイズに制約がありますが、大気中で可能になれば大きなものも作れるようになりますので、アルミニウム合金の活用範囲も飛躍的に広がるのではないかと期待されます。

ビジネスマインド育成にも注力

今、企業が求めているのは、探求心や技術力に富んでいるだけでなく、開発したものをいかに社会に還元できるかという目を持った技術者であり、人材です。また、これは私自身の経験から痛感していることでもあるのですが、社会に出れば時間やコストへの意識も求められます。ほとんどの学生は遅かれ早かれ就職し、企業人として生きていくことになるのですから、学生時代から多少なりともそうした目を持って研究に取り組んで欲しい、そうした能力も身につけて欲しいとも考え、研究室では、ビジネスマインド育成にも注力しています。

山梨大学工学部の一部では、3年次の後期に研究室に仮配属、4年次から本格的に研究室での活動が始まります。当研究

Sonoya KEIJI



【略歴】

- 1977年3月 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 1977年4月 石川島播磨重工業(株)
- 2006年4月 産業技術総合研究所客員研究員
- 2007年4月 芝浦工業大学教授(システム工学部)
- 2009年4月 山梨大学教授
(大学院医学工学総合研究部)

【学位】

工学博士(大阪大学)

【専門分野】

材料加工・処理(溶射工学/耐熱性・耐摩耗性・耐食性、溶接工学、コーティング)
 機械材料・材料力学(高温材料、高温強度)
 環境影響評価・環境政策(ライフサイクルアセスメント)
 生産工学・加工学

【受賞歴】

- 2003年 優秀論文賞((社)日本技術士会)
- 2009年・2010年 ビジネスプランコンテスト優秀賞((財)やまなし産業支援機構)
- 2011年・2012年 ビジネスプランコンテスト奨励賞((財)やまなし産業支援機構)
- 2014年 ビジネスプランコンテスト最優秀賞((財)やまなし産業支援機構)



[担当教員]

生命環境学部

柳田藤寿 教授 奥田 徹 教授

山下裕之 准教授

斉藤史恵 助教 乙黒美彩 助教

[到達目標]

ブドウの収穫からワインの醸造を行うことでワイン製造を体験し、その技術を理解することを目指します。

[授業の概要]

この授業は3年次の夏休みから3年次後期まで継続して行われる授業です。夏休みの段階では、ワイン醸造に関する基礎知識を授業やワイナリーへ出かけるフィールドワークで学びます。

各研究室の先生方の指導の下、ブドウの栽培方法・酵母の発酵過程・ワインの歴史などを学習し、ブドウ栽培からワイン醸造までの一連の過程を体験します。

ワイン製造科学実習

収穫は甲府市小曲の附属農場にて、ブドウ栽培学実習で育てたブドウの収穫を行います。各班ごと籠を持ち、房をブドウの樹から切り離し、収穫したブドウの重量を量ります。

収穫後はワイン科学研究センターにて、ブドウの梗こう^[注1]と実を分ける除梗作業を行います。除梗後、プレスじよう^[注2]した果汁は成分分析を行い、足りない糖分や酸度に応じて補糖・補酸をすることでろみ改良をしていきます。

[注釈] 1) 梗(こう)は、葡萄の粒がついている小さな枝のこと。
2) プレス(压榨)とは、皮と種を除き、果汁を絞ること。



ブドウの栽培方法から学びます



一人ひとりが、ワインの香りや味を評価します



この授業を通して、山梨県の重要な地場産業であるワイン製造の意義を理解し、ワインの基本的な製造方法を体験的に学ぶことができます

醸造の過程では、実際にワイン酵母を用いてアルコール発酵を行い、発酵曲線を作成し発酵終了後のアルコール度数や比重を計算し、データとしてまとめていきます。初めて見る実験器具や実験方法に、初めは戸惑いますが“なぜその作業が必要なのか?”また、“原因と結果の因果関係は何だったのか”などの指導教員から与えられた課題に取り組むことで、発酵とはどのような現象なのかを学ぶことができます。

醸造開始から約5か月ほどでワインが出来上がり、できたワインはテイスティングを通して、味わいや香りを分析していきます。

ワイン製造科学実習の授業は、ワイン科学特別コースでは必須の授業です。授業は少人数で、わからないところや疑問に思ったところは授業中でも遠慮なく先生に質問できるのがこの授業の最大の魅力です。また、単なる座学だけではなく、畑に出て実際に手を動かしたり、ワイン科学研究センターで醸造・テイスティングするなど、様々な授業形態も魅力の一つです。

(生命環境学部地域食物科学科3年 川田佑輔)

白痴教育は余に 教育の原理を伝えたり

※原文ママ

障害のある子どもと活動を共にします。
すると、

Aくん:「突然」走りだし、学校の塀によじ登る。

Bくん:教室を「突然」飛び出し、校庭の花壇に入っていく。

Cくん:歩くのを「突然」やめて、校舎の窓の外を見続ける。

などのエピソードに出会います。「僕のこと、先生、わかる?」と試されているかのようです。これらの行動は決して「突然」ではありません。何らかの「必然」があります。

その「必然」を頭の中だけで考えてもわかりません。だから、つきあいます。感動しました。人の多様性(Aくん)、自然物の潔さ(Bくん)、感覚刺激の揺らぎがもたらす癒やし(Cくん)について、この子どもたちから教わりました。「白痴教育は余に教育の原理を伝えたり(内村鑑三)※原文ママ」「この子らを世の光に(糸賀一雄)※下線・傍点は筆者」ということばを思い出します。

障害のある子どもの行動をどう理解するか。どう発達支援するか。これが私の専門分野です。

学生一人一人の 興味関心に基づくゼミ配属

私が所属する「障害児教育コース」のゼミは、3年次の初秋から本格的に始動します。ゼミ配属は学生の興味関心に基づきます。例えば、ある学生は「自閉症の子どもの偏食にどうつきあうか?」というテーマで卒業論文を書き、その成果を小冊子にまと



写真①: 学生が作成した小冊子の表紙



写真③: 学部生のゼミ風景(左から4人目: 古屋准教授)

めました(写真①・写真②)。

「障害児教育」には、いくつかの分野があります。

「どう考えるか?」という観点では、「教育学系・心理学系」などに分かれます。

「どのような障害種別か?」という観点では、「視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・その他(発達障害など)」などです。

障害児教育コースには5人のスタッフ(平成26年度現員)がいます。その5人の専門分野は、「どう考えるか?」×「どのような障害種別か?」の組み合わせが異なります。よって、学生たちの様々な興味関心にチームとして対応できます。私の場合は「教育学系」×「肢体不自由・知的障害」です。



写真④: 特別支援教育特別専攻科生のゼミ風景

学生たちはそれぞれの興味関心に基づき研究を進めます。その際、日本語の書き方からはじまり、論文の書き方、研究のマナーやルール、研究の技法などについて指導します(写真③・写真④)。

山梨大学の近くには 素敵な青空教室がたくさんある

山梨大学のすぐ裏手に「武田の杜」があります。1・2コマの授業の空きがあれば、出かけることができます。早朝も使えます。青空教室(写真⑤)で、すなわちランニング(参加学生の実性によってはウォーキング)をしながら学生たちと「どう考えるか?」の交流を図ることもあります。この活動が、心身共にタフな特別支援学校教員の養成にもつながると感じています。



写真⑤: ある日の青空教室(中央: 古屋准教授)



軽音楽部



観客がいる中での演奏は、最高です!



日ごろの練習をおもいっきり発揮します!

こんにちは! 私たちは、山梨大学軽音楽部です。軽音楽部はとにかく音楽が好きの人が多く集まっているサークルです。経験者はもちろんのこと、楽器なんて今まで演奏したことない! という方までどんな学生でも大歓迎です。

普段は大学東側のグラウンドにある音楽棟の3階で活動しています。バンドの形態は有名なバンドの楽曲を演奏する“コピーバンド(たとえばMr.Children、BUMP OF CHICKEN、東京事変、レッド・ホット・チリ・ペッパーズ等)”, 自分たちで楽曲を作って演奏する“オリジナルバンド”どちらでもOKです。練習はメンバー同士で話し合い決めるといった自主性を大切にしながら自由なスタンスをとっています。

私たちは月に一度のペースでライブを開催しています。その中には、山梨県内にある大学の軽音楽部(私たちのほかに、医学部キャンパスや山梨学院大学など)が一堂に集まってライブを開催するバンドフェスティバルや、梨甲祭のメインステージ上での演奏など、大勢の観客がいる中でのライブも行っています。さらに新しい試みとして、昨年は甲府駅北口駅前の広場(よっちゃばれ広場)にて私たちと医学部キャンパス、山梨学院大学の軽音楽部との合同ライブも開催することができました。

そして、もうひとつのライブの楽しみとして、ライブ後に必ず行う打ち

「経験者はさらに自分の音楽を深め、初心者はバンドの楽しさを知る」ことのできる魅力的なサークルです。



ライブ後には、みんなで打ち上げをします!

上げがあります。全員でひとつのステージを作り上げた達成感もあり、この打ち上げは仲間との絆を深める上で欠かせないものとなっています。

また、軽音楽部に所属する傍ら個人で精力的に音楽活動する学生(楽器初心者も)も大勢います。たとえば軽音楽部内でオリジナルバンドを組み、自分たちでライブハウスを借りて演奏するなど、自分に合ったスタイルでとても充実した活動をしています。

さらに、毎年夏休みには河口湖で合宿を行っています。場所は河口湖の練習スタジオ付宿泊施設を利用しています。合宿の最終日にはライブをするなど、今しかできない思い出を作ることができます。

このように軽音楽部では大学4年間好きな音楽に、とことん打ち込むことができます。



山梨大学医学祭実行委員会

こんにちは!

山梨大学医学祭実行委員会です!

私たちは毎年10月末に医学部キャンパスで開催される大学祭、「医学祭」の準備・運営を行う団体です。部活やサークルの枠を越え、総勢40名ほどで活動しています。

医学祭は、前夜祭に始まり、ステージ企画、医学展・看護展、学生が行う健康診断、教授や研究者の方を講師にお招きする講演会、主に運動部が出店する屋台や、文化系サークルの展示などいくつかのセクションに分かれています。それぞれ分担して準備を進めながらも、新しい企画を考えたり、去年の反省を生かしたり、例年よりもっと良いものにするために全体で話し合うこともあります。お祭り好きなメンバーが



フリーマーケットの様子



医学祭名物
軟式テニス部の豚汁



看板も実行委員の手造り



講演会の様子

みんなで協力し、ひとつになって、
医学祭という
一大イベントを成功させる。
他では得ることのできない
この達成感、
味わってみませんか？

多いこともあり、企画を考える時はたくさん案が出て、和気あいあいとした雰囲気です。みんなを盛り上げるのが好きな人には向いていますね!

その中でも目玉企画の一つとして、芸能人によるトークライブがあります。毎年芸能プロダクションや事務所に直接出向いて交渉し、知名度の高い芸能人を呼んでいます。(最近では麒麟、博多華丸・大吉、ハライチ、東京03他(敬称略))芸能人が好きな人や詳しい人は本領を発揮できる場かもしれません!

また、医学展や看護展では、医学部らしく医学に関するテーマについて調べ、展示・発表を行っています。一方で、病棟での実習経験のある医学部5・6年生に手伝っていただき、一般の人にも気軽に受けられる健康診断を実施したりもしています。このように医学部ならではの特色も織り交ぜているところも魅力の一つです。普通の学園祭には飽きたなあ、という人にはもってこいのイベントですね!

と、ここまで医学祭の内容と私たちの活動を紹介してきましたが、こういった数々の企画の準備や宣伝、当日の運営、そして撤収まですべて学生の手で行っており、それをまとめているのが私たち、医学祭実行委員会なんです。できるだけ多くの人に医学祭に関わってもらいたい、そしてたくさんの人に楽しんでいただきたい。その想いを胸に私たちは毎年活動しています。そんな熱いハートの持ち主がいたら、いつでも大歓迎です!

close-up people

◎医学部看護学科2年 後田麻緒さん



自己紹介をどうぞ♪

医学部看護学科2年の後田麻緒です。出身地は長崎市で、大学入学と同時に山梨に来ました。人と話すことや、音楽や映画を観賞することが好きです。最近はずっと洋楽にはまっています。雪の日はテンションが上がりますが、雨の日はすごく嫌いです！休みの日は外に出て遊びたい気持ちはあるものの、いつも眠気に勝てず結局自宅で寝てしまうことが多いです(笑)

看護師を目指そうと思ったきっかけは何ですか。

病院に行った際に対応してくれた看護師さんに憧れ、私もその方のようになりたいと思ったことがきっかけです。将来は、患者さんや医療スタッフみんなに頼られる看護師になりたいと思っています。

大学生活は楽しいですか？

はい、楽しいです。お昼休みに友人とお喋りしながらごはんを食べるのが今の一番の楽しみです。1年次では甲府キャンパスの学食に行くのが楽しみでしたが、2年次からは医学部キャンパスに移り、毎日近くのコンビニや医学部の購買に通っています。…早く自炊できるように頑張りたいです。

看護学科の同期はみんな仲が良いのですが、医学科の学生とは部活でしか接点がないので、同じ医学部キャンパスにいる医学科の学生との交流も、より活発にしていきたいと思っています。

また、医学部キャンパスだけでなく、甲府キャンパスにも親しくしている友人が多くいます。医学部は2年次からキャンパスが変わるので1年次のうちに他学部の



大阪で開催された全国試合の帰りに…
(後列右から2人目が後田さん)

学生と仲良くなれたことは大きな収穫でした。

空手はいつから続けているのですか？

友人がやっていたことをきっかけに、小学1年生の頃から始めました。小学校では毎日のように道場に通り、中学校・高校に入ってから部活動と、道場にも通っていました。大学生になった現在でも道場に週3回、部活動に週1回のペースで通っています。特に試合の2週間前からは、ほぼ毎日練習に励んでいます。

普段はどんな練習をしているのですか？

ランニングから始まり、ダッシュやリレーなどで体を温めた後、ストレッチや基本練習を行い、その後組手や形の応用練習に入っていきます。普段の練習時間は夜7時～11時ですが、長い時は夜中の12時頃になることもあります。

私にとって道場は、第2の家族のようなものです。練習中も先生方のおもしろいお話や勉強になるお話があり、空手の技だけでなく様々なことを学ぶことができ、心身ともに向上できる場です。このように充実した練習ができるため、長い練習時間もあっという間に過ぎてしまいます。も



医学部空手部のメンバー

ちろん時には行きたくない日もありますが、練習は休まないように心がけています。というのも、道場の先輩方や子ども達が毎回休まず練習に来ている姿を見ると、休んでしまったら自分に負けてしまうような気持ちになるからです。これまでも一人では自分自身に負けてしまっていたかもしれませんが、先生・先輩・子ども達と一緒に練習していく仲間の影響を受けてここまで頑張れたと思います。私も同じように誰かの頑張る源になれたらいいなと思っています。

勉強と空手の両立はやはり大変ですか？

はい。どちらも中途半端になってしまいがちであるため、きちんと両立できるようにしたい!!というのが本音です。空手は一日の練習時間が長いので、帰宅すると疲れてすぐ寝てしまうんです。そのため、勉強は練習がない日にじっくり頑張るようにしています。

家族や仲間のサポート、友人からの応援のおかげで、勉強と空手の両立ができているのだと日々実感しています。

今後の目標があったら教えてください！

空手はとても楽しいものです。なので、もっと多くの方に空手の魅力について知ってもらいたいと思っています。少しでも興味がある方は、ぜひぜひ空手部へ！

そして何より今注目すべきは、空手が2020年に開催される東京オリンピックの種目候補に挙がっていることです。オリンピック種目に採用されたら、私もぜひ出場できるよう頑張りたいと思います！

【最近の大会結果】

- 糸東流世界大会(日本武道館)
女子団体形優勝
- アジア太平洋糸東流大会(シンガポール)
女子団体形優勝
- 東日本女子医学部大会
形・組手優勝



通っている道場の長谷川空手スクール(前列右端が後田さん)



アジア大会(女子団体型)にて(左端が後田さん)

KOFU CAMPUS

甲府

学生が創るcafé flat(フラット)

山梨大学甲府キャンパスから徒歩10分のところに、賑やかな声が聞こえてくるカフェがあります。ここ、café flat(フラット)は学生が創るコミュニティーカフェです。なんと、スタッフ全員が山梨大学や山梨県立大学、都留文科大学といった県内の大学生で、お店の床から天井、机、椅子の全てが手作りです。2013年10月にオープンして今年で2年目。スタッフも交替わりをして、新たなflatを創っています。

メインメニューにはフラッティーカレーや自家製ミートソースを使ったYOSHIMITSUタコライスがあります(各¥500)。その他にも紅茶やコーヒー(各¥250)、期間限定のメニューもあります。お水だけ飲みに行っても大丈夫です。また、クリスマスやバレンタインなど、そのシーズンに合わせた楽しいイベントが盛りだくさんです。お客さんは学生だけでなく、小さなお子さんから大人まで様々です。いろんな人に会い、新たな価値観に触れ、人との繋がりを通して自分の想いを伝え合い、それをきっかけに想いを形にする。



おしゃれでかわいい店内



お店の入口

なんと、スタッフ
全員が大学生!!



そして、最終的に「自分らしく輝ける学生が増えてほしい」という願いから、このcafé flatはできました。「フラットに来て、フラットに語り、フラットと動き出したくなる空間」がここにあります。

(生命環境学部環境科学科2年 秋葉祐里)

café flat(フラット)

山梨県甲府市武田2丁目10-21大晋ビル1-B号室

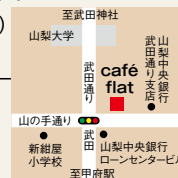
[HP]<http://cafeplat.wix.com/cafe-flat>

[Facebook]学生が創るcafé flat

[Twitter]@flat_yamanashi

[営業時間]月・火・木・金/18:00~21:00 土/11:00~21:00

[定休日]水・日



FACULTY OF MEDICINE CAMPUS

気負わない、 本格イタリアン Italian Dining Conel(コネル)



今回紹介するのは、附属病院のすぐそばにあるお店、イタリアンダイニング コネルさんです。

医学部の学生はもちろん、職員や来院する方など、年齢性別問わず、多くの方々が利用します。

お店のコンセプトは、『気負わない、本格イタリアン』です。イタリアンレストランと聞くと、少し敷居が高いような気がしますが、コネルさんは

肩肘張らない、居心地の良い空間を提供しています。

ランチもディナーも営業しており、ランチでは、たくさんの種類からパスタが選べるお得なセットメニューが人気です。(なんとサラダ、ドリンク、デザート付きです!)ディナーでは、お酒も飲み、ラ

ンチとはまた違った雰囲気、豊富な種類の料理が楽しめます。さらにディナー限定でパスタの麺も選べます。店内に見本が用意しており、見て選べるのも嬉しいです(^_^)

また、店内にはカウンター席とテーブル席があり、お一人でもよし、誰かと来てもよし、団体に貸し切りもできちゃいます。

誰といつ来ても、時間を忘れてゆったりとくつろげる雰囲気、おしゃれな音楽、おいしい料理が揃っています。附属病院に立ち寄った際などに、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(医学部看護学科2年 田崎加奈子)



医学部

Italian Dining Conel(コネル)

山梨県中央市若宮31-10 sun town101

[電話]055-269-5762

[営業時間]ランチ/11:30~14:00 ディナー/18:00~23:00

[定休日]火曜日



COC事業キックオフ&シンポジウムを開催

1月26日(月)、アーバンヴィラ古名屋ホテル(甲府市)において、「山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成」をテーマとする(平成26年度「大学COC事業」)のキックオフ&シンポジウムを開催し、自治体・企業関係者や市民など180名を超える参加者がありました。

開会にあたり、前田秀一郎学長より「山梨県の基幹産業の一つである農業分野の衰退に歯止めをかけ、自然と一体となった新たな里づくりを行うという課題解決に関係自治体などと連携して取り組む」と挨拶の後、佐野 太文科省大臣官房審議官、横内正明山梨県知事、宮島雅展甲府市長、金丸康信甲府商工会議所会頭、進藤 中山梨中央銀行頭取から、COC事業を通じた山梨大学の地域貢献に対する期待が述べられました。

基調講演では、佐野審議官/内

閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長より、「地方創生に向けた総合戦略」と題して、まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月27日閣議決定)の基本構想の説明があり、地方創生に向けた大学の役割への期待が述べられました。

パネルディスカッションでは、「地域の発展に寄与する山梨大学の人材育成～山梨大学のCOC事業～」をテーマに、山路尚武文科省大学振興課課長補佐、山里直志山梨県農政部長、白倉政司北杜市長など8名のパネリストから、地域の課題や山梨大学への期待などについて、それぞれの立場で発言があり、食のブランド化と美しい里づくりを進める上で様々な課題が提示されました。

今回のキックオフ&シンポジウムは、地域の諸課題の解決に関わる本学のCOC事業を周知し、関係諸機関との連携を一層密にするものとなりました。また、3月23日(月)には、今年度の事業成果について発表会を開催し、成果の共有を図ることとしています。



熱心に聴く参加者

平成27年度学年暦(年間予定表)

事項	期日等
前期開始	4月1日(水)
ガイダンス等	4月1日(水)～4月10日(金)
入学式	4月7日(火)
前期授業開始	4月13日(月)
授業振替日	5月7日(木)月曜日の振替日
授業振替日	5月8日(金)水曜日の振替日
前期授業終了	7月31日(金)
夏季休業	8月1日(土)～9月23日(水) 各学部で定める
秋季卒業式・修了式	9月25日(金)
前期終了	9月30日(水)

事項	期日等
後期開始	10月1日(木)
開学記念日	10月1日(木)
秋季入学式(大学院)	10月1日(木)
後期授業開始	10月2日(金)
大学祭(医学部キャンパス)	10月23日(金)～10月25日(日)
大学祭(甲府キャンパス)	10月30日(金)～11月1日(日)
授業振替日	11月26日(木)月曜日の振替日
冬季休業	12月23日(水)～1月6日(水) 各学部で定める
後期授業終了	2月8日(月)
春季休業	2月9日(火)～3月31日(木) 各学部で定める
卒業式・修了式	3月23日(水)
後期終了	3月31日(木)

(注) 1. 授業振替日とは、授業回数が不足している曜日について、当該不足曜日の授業を振替えて行うものです。
2. 1月15日(金)は、大学入試センター試験準備のため休講とします。

編集後記

2014年度最後のVine25号をお届けします。

患者の立場で看護実践力を発揮できる看護系人材育成システム、技術革新をもたらす基盤となる材料加工学研究、障害のある子どもの行動を理解して一つ一つの生に寄り添う障害児教育、山梨大学では未来社会への貢献度が高い様々なアカデミックな取り組みが推進されていることが紹介されています。

桜の季節は卒業、就職、あるいは入学といったイベントが目白押しで、慌ただしく過ぎていきます。大学教員を生業にして二十余年が経つ知人が、常々口に出していることです。「卒業生を送り出す時は、共に歩んできたプロセスを振り返って充実感・達成感が得られる反面、大切に育んだものを失う喪失感も大きく、実に感慨深い」。確かに、「卒業」には喜びと悲しみが同居します。

卒業・修了生の皆さんにとっては、この山梨大学で刻んだ時間全てが財産であり、それを礎に、新たな世界でさらに大きく飛躍されることを祈っています、「行ってらっしゃい」。入学時には想像できなかったほどに「化けた」皆さんの背中を笑顔で見送った後、期待に胸膨らませる新入生を真っ白なキャンパスに迎え入れ、私たち山梨大学は再起動します。

広報誌専門委員会委員長 小山勝弘

表紙作品の紹介

タイトル
「解き放たれるとき」
鹿山卓耶
教育人間科学部
教科教育コース美術教育専修4年

山梨大学広報[VINE] March 2015 vol.25

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。